

パレスティナにおける ヘレニズム時代の編年に関する一考察

一口縁部が内湾する小鉢とフィッシュ・プレートをもとに一

牧野 久実

Archaeological Chronologies of the Hellenistic Period in Palestine:
From Incurved Rim Bowls and Fish Plates

Kumi MAKINO

パレスティナ考古学におけるヘレニズム時代は前期と後期に分類され、前期はプトレマイオス朝時代に、後期はセレウコス朝時代もしくはハスモン朝時代に相当すると考えられている。以前はコインなどの文字資料に年代が決定されどどちらかという政治史的側面の解明に主眼が置かれていた。しかし近年、土器などの物質文化的側面により関心が寄せられるようになってきた。本稿では、パレスティナの各遺跡においてヘレニズム時代の層がどのように年代付けられているのかを概観し、特にヘレニズム時代に典型的な土器と言われる口縁部が内湾する小鉢とフィッシュ・プレートをもとにパレスティナのヘレニズム時代を物質文化から捉える試みを行う。

キーワード：パレスティナ考古学、ヘレニズム時代、口縁部が内湾する小鉢、フィッシュ・プレート

In Palestine archaeology, the Hellenistic period is usually considered as comprising two political phases, the Ptolemaic-Seleucid Periods and the Hasmonean Period. Recently, however, the chronological studies are focusing more on material culture. This paper reviews how the layers of the Hellenistic periods at the sites in Palestine are dated, and tries to show how the typological sequence of pottery can contribute to dating strata. The types of incurved rim bowls and fish plates, typical Hellenistic vessels, will be discussed to build a framework of chronology based on the material culture. The result shows that morphological transition of the incurved rim small bowls is almost coincident with political phases. Fish plates, on the other hand, are not and their transition goes back to the Persian period in the early 4th century, with their morphological transition coming in the middle of the Ptolemaic Period around the end of the 3rd century B.C. The difference in the transition pattern of these two vessels shows the material culture of the Hellenistic Period does not simply parallel the political phases.

Keywords: Palestine archaeology, Hellenistic period, incurved rim bowls, fish plates

1. 本稿の目的とパレスティナ各地の遺跡における時期の解釈

パレスティナ考古学におけるヘレニズム時代は前期と後期に分類され、前期はプトレマイオス朝時代に、後期はセレウコス朝時代もしくはハスモン朝時代に相当すると考えられている。パレスティナ各地のヘレニズム時代の遺跡(図1)に関する発掘報告を見ると、出土する層の年代付けについて考古資料よりも文字資料・文献史料をよりどころにする傾向にあることがわかる。例えば、ゲゼル(Gezer)では出土した印影やコインによって、第3層(前5世紀～前4世紀)の一部がプトレマイオス朝、第2層(前2世紀)がハスモン朝とされている(Dever et al. 1970, 1974)。ベ

ト・ツル(Beth Zur)では第2神殿時代(第1層)が文献史料の記述(ユダヤ古代誌 XIII: 15)から歴史的画期を示す6期に細分され(Funk 1993: 259-261)、サマリアでも同様に文献史料から知られるアレクサンダーによる植民地化やヒルカヌス1世による破壊行為(ユダヤ古代誌 XIII: 275)から第IX層(Period IX: ヘレニズム時代)が年代付けられた(Avigad 1993: 1306-1307)。

ヘレニズム時代の物質文化についてはP. W. ラップ(Lapp)が1960年代に土器の型式に関する研究書を出版した(Lapp 1961)。しかし、半世紀を経た現在、その内容は実態に合わないものとなっている。こうした中、特に1990年代以後、土器の分析に基づいた年代観が提示され

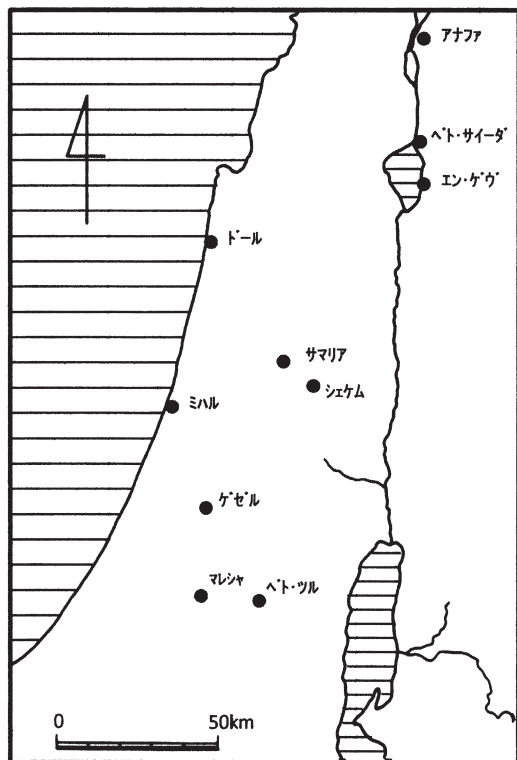


図1 本稿で扱ったパレスティナ各地の主な遺跡

るようになった。テル・マレシャでは鉄器時代とセレウコス朝の間の層にペルシア時代～前期ヘレニズム時代が (Kloner 2008)、シェケムでは第Ⅲ層 (プトレマイオス朝) の物質文化が前半と後半で異なる点が (Lapp 2008: 1-2) それぞれ指摘された。北部沿岸地域のテル・ミハルの第Ⅴ層 (前期ヘレニズム時代) と第Ⅳ層 (後期ヘレニズム時代)、同じく北部沿岸部のドールの第ⅤA層 (前350年～前275年)、第ⅣB層 (～前200年)、第ⅣA層 (～前125年)、第Ⅲ層 (～前1世紀半ば) では、それぞれ土器の型式分類が試みられた (Stern 1995)。キネレト湖北部ではベト・サイダにおいて第2層 (Level 2) が前期ヘレニズム時代～前期ローマ時代として4期に細分されているが (Arav and Freund 1995, 1999)、頻繁に建築物が再利用されていることから土器はヘレニズム・ローマ時代として一括報告している。さらに北に立地するテル・アナファではヘレニズム時代が大きく前期 (HELL 1A) と後期 (HELL 1B～HELL 2C) に分類されている (Herbert 1994)。

キネレト湖東岸のエン・ゲヴでは、1961年にB. マザール (Mazar) らが短期の発掘を行い (Mazar et al. 1964)、その後1990年から2004年にかけて日本聖書考古学発掘調査団が発掘調査を行った (月本ほか 2009)。ヘレニズム時代の層 (第Ⅱ層) はいくつか細分される可能性があるものの、攪乱や建物の再利用により遺跡全体の遺物を層ごとに明確に分類することは困難である。しかし一部の部屋にお

いて上層と下層を区別する試みがなされている (Makino forthcoming)。ヘレニズム時代の後期についてはロードス壺の把手とコインの刻印について進められつつある長谷川修一の研究 (Hasegawa forthcoming) がより詳細な年代的枠組みを構築するうえで重要である。

以上のように、かつては文字資料や文献史料中心であったが、近年は全体としてそれらと同時に土器資料が重視され、編年を構築するための基礎資料が蓄積されつつある。

そこで本稿では、これらの基礎資料を使い、特にヘレニズム時代に典型的な土器と言われる口縁部が内湾する小鉢 (図2) とフィッシュ・プレート (図3) を取り上げ、それぞれの編年を確認するとともに、その型式変化が文字資料・文献史料をもとに構築された政治的画期との連動性を論じる。

2. 小鉢からの試案

口縁部が内湾する小鉢はヘレニズム時代のパレスティナで最も一般的な日常容器の1つである。高さ4～6cm、口径11～18cm、底部の直径は口径のおよそ3分の1で約4～6cmである。胴部の断面はV字状を描くタイプ (図2-IB3) と曲線を描くタイプ (図2-IB4) がある。底部は通常リング状である。胎土は鈍いオレンジ色から明るく黄色みがかかったオレンジ色で、表面には灰色がかかった黄土色から暗い赤茶色のスリップ¹⁾がかかる。色合いが均一でなくむらがあるものが多数見られるが、これをバーリン (Berlin) はスパッター・ペインテッドと呼んでいる (Berlin 1994: 7)。また、焼成する際に窯の中で大量の土器が密着した結果、スリップが付着し合ったものという考え方もある (Guz-Zilberstein 1995: 289)。轆轤で成形し焼成は良く固い。アテネでこのタイプがほとんど見られないことから、生産地は東地中海世界のどこかであろうと考えられている。胎土分析によってキプロス東部で前220年から前100年にかけて作られたという研究成果もある (Gunneweg et al. 1983)。

この小鉢はエキヌス・ボール (ウニの形をした鉢) と呼ばれることもある。機能についてはあまり論じられることなく食器と一般的に考えられており (牧野 2010)、ドールでは食器類の筆頭に、アナファでは食器類の最後から2番目に記されている。また、アレクサンダー大王が植民したペルシア湾のファイラカ島でも多数出土しており、発掘報告書で用途多様な使い勝手の良い食器と記されている (Hannestad 1983: 15, Vol. 2.2, Plate 1)。埋葬品や儀礼に関して用いられることもある²⁾。

この小鉢は、東地中海世界ではヘレニズム時代に限定して出現するが、前2世紀末になると次第に減少し前1世紀では稀となる。アナトリア南東部のタルススでは前期のも

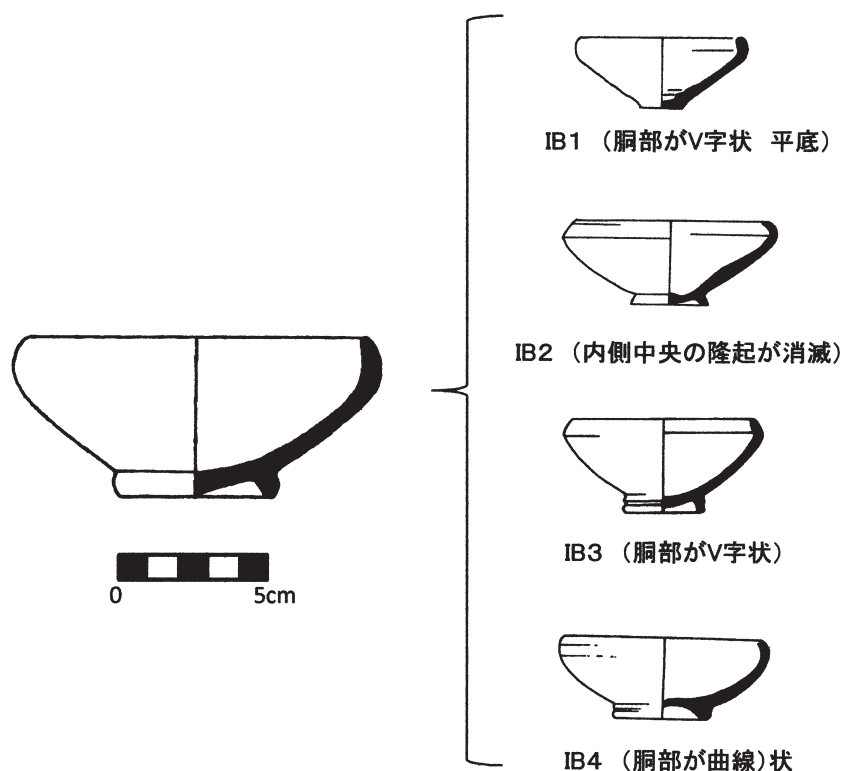


図2 口縁部が内湾する小鉢

のはより深く中期になるとより浅く小さく口縁部の内湾する角度もシャープになることが指摘されている (Jones 1950)。

パレスティナにおける出土状況は以下のとおりである。テル・ドールでは前4世紀半ばから出現し始め、ヘレニズム時代の初めには出土する碗の75%がこのタイプとなる (BL8a, Guz-Zilberstein 1993: 345, Fig. 6-1: Nos. 1-24) (図4)。ヘレニズム時代を通じてローマ時代の初めまで連続して出土し、典型的な小鉢 (BL8a) のほかに口径が通常のほぼ倍の大鉢 (BL8b)、ミニチュア (BL8c)、胴部が直線的なV字状を呈し口縁部が鋭く内側に折れる例外的なタイプ (BL8d)、胴部がV字状を呈した平底の小鉢で、スリッパを施さず焼成も甘いタイプ (BL8e) に分類されている。これらは層ごとに分類されており、以下のような変遷が見られる。前4世紀半ば～前3世紀初めでは胴部の断面が曲線を描くタイプが出土する。また全体にむらなくスリッパを施し艶のあるアッティカ起源と思われるものも含まれる。ところが前3世紀には胴部の断面がV字状を描くタイプが含まれるようになる。また、これ以後艶消しの地元産と思われるタイプのみとなる。前3世紀末までのタイプは内側の中央部がやや隆起している点も特徴として挙げられるが、以後前1世紀前半までにこうした隆起は見られない (図2-IB2)。胴部の断面は曲線タイプも混在するもののV字状タイプが中心となる。なお、胴部の断面がV字

状で平底を有するタイプ (BL8e) (図2-IB1) は全体の5%と数は少なく、他の小鉢と異なる形状や質であることから壺の蓋ではないかと報告者は考えている。

テル・ミハルでは主にD地区の第VI層から第IV層 (前4世紀後半～前2世紀末) で出土している (Singer-Avitz 1989: 133) (図5)。第VI層では全体に黒釉を施したアッティカタイプの模倣品で胴部の断面は曲線とV字状の双方が見られる。第V層では曲線タイプが主流だが、第IV層ではV字状タイプが主流となる (Fisher 1989)。また、粗い胎土を用いた胴部の断面がV字状で平底を有するタイプも第VI層で多く出土している。なお、第IIIb層では胴部がV字状を呈した糸切りの平底小鉢で、スリッパを施さず焼成も甘いタイプが見られる。

シェケムでは第IV層後半 (前4世紀末) で初めて胴部の断面が曲線状のタイプが出土し、若干の破片のみが報告されているにすぎないものの、第III層と第II層で胴部の断面が曲線状のタイプとV字状のタイプの双方が出土している (図6)。第I層では胴部の断面がV字状で平底を有するタイプのみが見られるようになる。

テル・アナファではHELL 1層からROM 1C層にかけて出土している (Berlin 1994: Pl 16) (図7)。HELL 1B層では4点だが、HELL 2層では129点が、特にHELL 2A期で最多数の54点が出土している。ROM 1層 (前1世紀～1世紀) で170点 (うち、A期で53点、B期で84点)

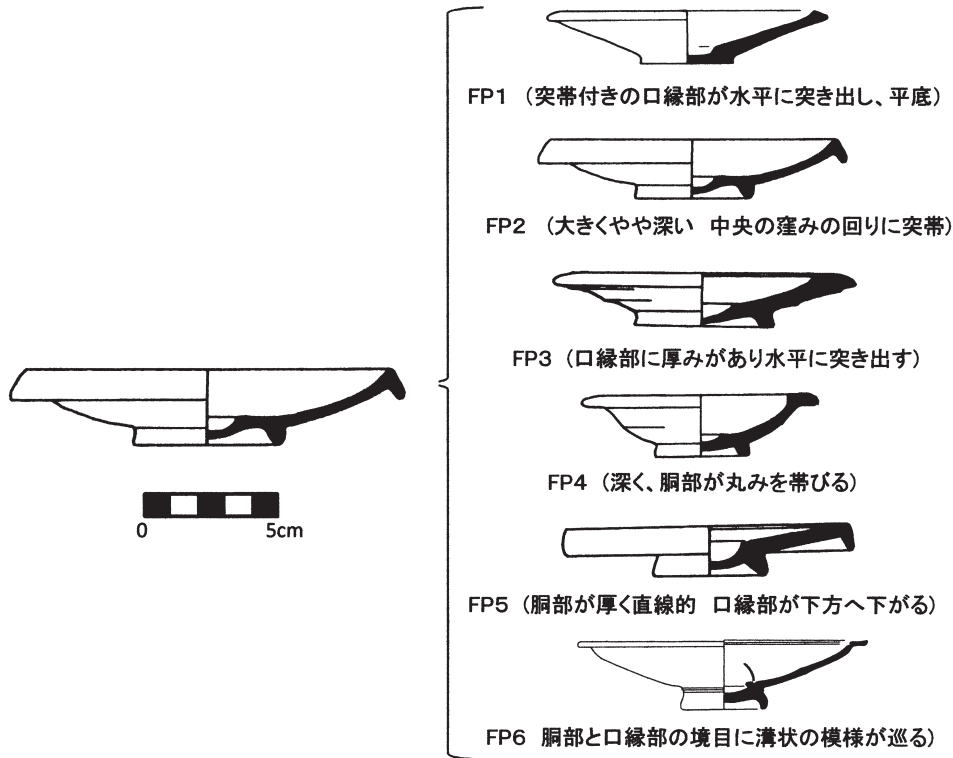


図3 フィッシュ・プレート

が出土しており (Berlin 1994: PL16, PW138, PW139)、ROM A層 (前1世紀末～1世紀始め) のタイプは粗い胎土を用いスリップは施されていない。器壁はV字状でヘレニズム時代のものに比べてやや薄く、口縁端部の内湾の程度も小さい。HELL 2A層 (前125年～前2世紀末頃?) では胴部の断面が曲線状のタイプ (PW133) とV字状のタイプ (PW136) の双方が出土している。HELL 2A～B層の移行期では胴部の断面がV字状で口縁端部がそれほど内湾せず上にやや立ち上がる (PW136)。HELL 2B～C層の移行期では胴部の断面中ほどにわずかな屈曲部分を有し、やはり口縁端部の内湾の程度は小さい (PW137)。なお、胴部の断面がV字状でディスク形の底部を有するタイプは報告されていない。ベト・サイエダでは第2層からの出土物が一括して報告されている (Arav and Freund 1995: 108, Pl. I; 1999: 61-67, Pls. V-VIII, 71, Pl. XI, 83, Pl. XVII)。胴部の断面がV字状で底部がリング状のタイプが出土している他に、断片であるため明確ではないが、おそらく胴部の断面が曲線状とV字状の双方のタイプが存在したであろう (図8)。

エン・ゲヴでは一部の部屋において上層と下層を区別することが可能である。小鉢については曲線タイプとV字状タイプの両方が出土しており、下層から曲線タイプ、上層からV字状タイプが検出されている様子を見ることができる (図9)。

3. フィッシュ・プレートからの試案

また、小鉢と同様にヘレニズム時代に典型的な土器としてフィッシュ・プレートが挙げられる。その口縁部は外に張り出し、口縁部の先端は水平もしくは下方へ伸びる。底部はリング状である。また、内側中央部には僅かに窪みが見られるがその直径は底部の直径よりも小さい。良質な粘土を用いて固く焼成されている。内外共に表面には黒色、褐色、赤褐色などのスリップが施される。

フィッシュ・プレートの起源は前5世紀～前4世紀にアテネやイタリア南部で作られた絵付きのタイプに遡る。中央の窪みを取り囲むように数尾の魚や貝類を描いたもので、アテネの絵師は魚の腹を外側、すなわち皿の縁側に向けて、イタリア南部の絵師は逆に皿の中央部に魚の腹に向けて描いたという (Clark et al. 2002: 93)。この絵柄がフィッシュ・プレートの使い方を示すものだとすると、1匹の魚を中央に盛るのではなく複数の魚を窪みの周りにぐるりと並べるための皿であったと考えられる。外側へ張り出す口縁部は皿からはみ出すほどの魚を支えるための工夫であったかもしれないが、パレスティナからの出土例に魚が描かれたものはこれまでに報告されていない。なお、アテナイオスが記した『食卓の賢人たち』(アテナイオス 1997) からはヘレニズム時代を含む古代ギリシャ・ローマ世界の魚料理を各種のソースを添えて食したことが知られており、内側中央部の窪みはこうしたソースを添えるため

IB	FP	層	
IB2 IB3 IB4		III	前64
	FP2 FP3 FP4	IVA	前104
IB3 IB4		IVB	前201
IB4 アッティカタイプ		VA	前296
	FP5	VB	前332
			前400

図4 層位と出土状況（ドール）

IB	FP	層	
IB1		IIIa	前50
		IIIb	前100
IB1 IB2 or IB3	FP2 粗末なタイプ	IV	前200
IB3	FP2? FP3?	V	前300
アッティカタイプの模倣品		VI	前350

図5 層位と出土状況（ミハル）

IB	FP	層	
IB1	FP1	I	前110
IB2 IB3 IB4	FP3 FP4	II	前150
	FP5	IIIA	前190
		IIIB	前225
IB4	IV層で1点 (タイプ不明)	IV	前250
			前325

図6 層位と出土状況（シェケム）

IB	FP	層	
IB1 器壁やや薄い	FP6(2Aで最多。口縁部が水平に突き出すタイプと口縁部の断面の形状が三角形のタイプ有り)	ROM1A	前75
IB3? ただし胴部がわずかに屈曲		HELL2C	前98
IB2 IB3 IB4		HELL2B	?
		HELL2A	前125
(初めて出現)	FP6(初めて出現)	HELL1B	前198
		HELL1A	前332

図7 層位と出土状況（アナファ）

IB	FP	層	
IB2 IB3 IB4	FP2 FP5	LEVEL2	67年 前333年

図8 層位と出土状況（ベト・サイエダ）

IB (一部の部屋)	FP	層	
IB2 IB3 IB4	FP2 FP3 FP4	第II層	前2世紀?
	FP5		前3世紀?
			前4世紀半ば?

図9 層位と出土状況（エン・ゲヴ）

のものであったという。フィッシュ・プレートの起源に見られるようなこうした機能がヘレニズム時代にまで同様に受け継がれていたかどうかは不明であるが、少なくとも形態の類似性から絵付きのものと同じ呼び名がつけられている。

フィッシュ・プレートはパレスティナでは前400年頃から現われ始め、前2世紀末頃まで出土する。ドールではフィッシュ・プレートを4つのタイプの分類し、層毎の変化を詳細に報告している(図4)。それによると、前4世紀初め～前3世紀半ば(第VA層)では口縁部の先端が下方へ下がり、胴部が直線状で厚みがある浅皿タイプ(BL4a)(図3-FP1)で、皿全体の10～20%がこのタイプに相当する。前3世紀と前2世紀全般(第IVB層と第IVA層)では器形がより深く時に中央の窪みの周囲に突帯が巡るタイプ、(BL4b)(図3-FP2)、やや厚みのある口縁部が外側へ水平に突き出すタイプ(BL4c)(図3-FP3)、胴部が丸みを帯び、口縁部の断面の形状が三角形を呈するタイプ(BL4d)(図3-FP4)が主流となる。

テル・ミハルでは第V層(前期ヘレニズム時代)と第IV

層(後期ヘレニズム時代)から口縁部の先端が下方へ下がるタイプが出土している。第V層のものは口縁部先端の下方への伸びはそれほど大きくないが、第IV層のものはより大きく垂れ下がることが報告されている(Fisher 1989: 178, Pl. 13: 1-9)(図5)。

シェケムでは第IV層(前4世紀半ば～前3世紀半ば)で初めて口縁部の先端が下方へ下がりリング状の底部を有するスリップを施したフィッシュ・プレートが出土する。このタイプは第III層(～前2世紀初め)でも継続するが、第II層(～前2世紀半ば)では口縁部に厚みがあり水平に突き出すタイプや口縁部の断面が三角形を呈するタイプ、また、断片のみの出土だが胴部が丸みを帯びると見られるタイプに変化する(Lapp 2008: 293, Pl. 3.28-25)(図6)。さらに第I層からの出土物として、突帯付きの口縁部が水平に突き出し平底を有するスリップを施さないタイプをフィッシュ・プレートの延長として報告している。ただし、アナファではこのタイプは蓋とされている。

アナファではフィッシュ・プレートが本当に魚料理用であったかどうかは曖昧だという理由から単に皿(ソー

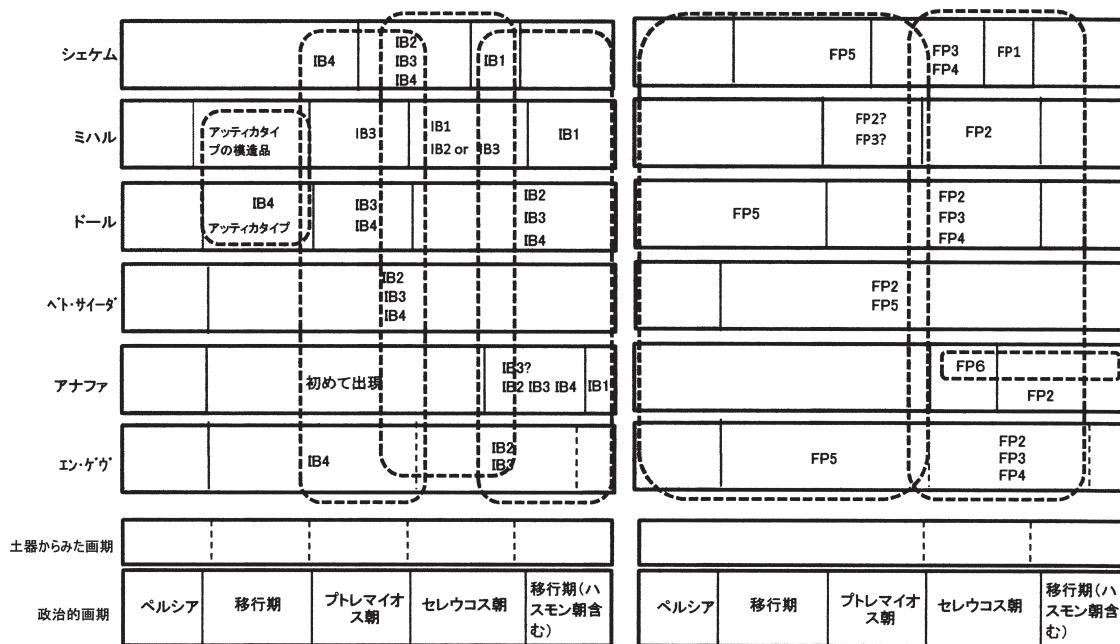


図10 小鉢とフィッシュ・プレートからみた画期

サー)と呼んでいる (Berlin 1994: 76-77)。ここでは黒色のスリップを施したやや大きく深い中央の窪みの周りに突帯が巡る輸入品の他に、より粗野な作りだが独特な形態を持つものが出土している。それは、胴部と口縁部の境目に刻み目があり口縁部が水平に突き出すタイプと、胴部と口縁部の境目、そして胴部内側の中程に刻み目が見られやや厚い口縁部の断面の形状が三角形のタイプである。いずれも中央の窪みの周囲がリング状に突き出す (図3-FP6)。これらは HELL 1B 層で最初に出現し、HELL 2A 層で最も多く出土している。HELL 2 層を中心に主に ROM 1 層半ばまで継続する (図7)。

バト・サイダでは第2層から、口縁部の先端が下方へ下がり胴部に厚みがあるタイプと器形がより深く中央の窪みの周囲がリング状に盛り上がるタイプが見られる (Arav and Freund 1995: 109-110, Pl. II-III; 1999: 61, Pl. V) (図8)。

エン・ゲヴでも、断片がほとんどであるが、数多く出土している。建物入り口付近と思われる部屋7からは層ごとに分類することはできないものの、口縁部の先端が下方へ下がり、胴部が直線状で厚みがあるタイプ、器形がより深く中央の窪みの周囲に突帯が巡るタイプ、やや厚みのある口縁部が外側へ水平に突き出すタイプ、胴部が丸みを帯び口縁部の断面の形状が三角形を呈するタイプが出土している。その他の一部の部屋では上層と下層を区別することができ、大半が断片であるが、口縁部が外側へ水平に突き出すタイプ (部屋5の上層)、器形がやや深く中央の窪みの周囲に突帯が巡るタイプ (部屋10の上層から完形が出土、部屋16の上層、部屋17の上層) 口縁部の先端が下方へ下

がり、胴部が直線状のタイプ (部屋26の下層) が出土している。全体として言えることは口縁部先端の下方への伸びはそれほど大きくない点である (図9)。これはテル・ミハルの前期ヘレニズム時代のもものと共通する特徴である。一方、前3世紀～前2世紀のドールで見られるような中央の窪みの回りに突帯が巡るタイプや口縁部に厚みがあり水平に突き出す胴部が丸みを帯びるタイプ、口縁部の断面が三角形を呈するタイプと共通する。また、前2世紀後半のシェケムに見られるような突帯付きの口縁部が水平に突き出すスリップを施さない平底タイプは見られない。

4. まとめ

口縁部が内湾する小鉢とフィッシュ・プレートの変遷を概観した結果、以下の傾向が見られた (図10)。小鉢とフィッシュ・プレートにほぼ共通する画期は前2世紀末から前1世紀頃である。この頃、小鉢は粗い粘土を用いスリップを施さないタイプとなる。形態は平底で胴部のV字状が際立つものへと変化する。フィッシュ・プレートは消滅するか、もしくは小鉢と同様に粗い粘土を用いスリップを施さないタイプとなる。形態は平底で胴部のV字状が際立ち、内側の窪みも大きく、この窪みが無ければフィッシュ・プレートのカテゴリーからは大きく外れるような形態となる。一方、全体の変遷について小鉢とフィッシュ・プレートに違いも見られる。それは、小鉢は形態的な移行期を含みながらも政治的な画期、すなわちアレクサンダーによる征服の時期、プトレマイオス朝、セレウコス朝とほぼ一致する形で変化する点である。一方、フィッシュ・プ

レートはその出現が前4世紀始めに遡ることから、ヘレニズム時代に典型的な器であるものの、ペルシア時代にまで遡って変遷を追う必要があることを示している。またミハルやシェケムの事例が示すように、前3世紀末、すなわちプトレマイオス朝の中ほどに画期があり、必ずしも政治的な画期と一致しない。

本研究ノートではヘレニズム時代に典型的と言われる2種の土器について編年と型式の変化を捉え、物質文化の画期が文献中心の政治史からは見えない文化的側面における変化を捉える上で有効と思われることを示した。この研究は物質文化の変化の背後に、文化の担い手の交替があったのか、あるいは選択的文化の需要があったのか、という点を特に食文化に関係する物質文化から明らかにする取り組みの端緒である。今後は同様の分析を食器と調理器について進め、それらの出現パターンを捉えることによって、ヘレニズム時代のパレスティナにおける生活文化とエスニシティとの関係の解明といったより大きな問題を捉えたいと考えている。

謝辞

本調査の遂行と本稿の執筆にあたって、次の機関からの助力を得た。記して感謝したい。鎌倉女子大学、慶應義塾大学、独立行政法人日本学術振興会、財団法人三菱財団（順不同）。

註

- 1) ここでは陶器ではないので釉薬 (glazed) ではなくスリップ (slip) という語を用いた。小鉢の場合、スリップの他にバーリンが表現するような彩色 (spatter painted) という用語も使われることがある。また、小鉢の起源はギリシャ産の艶のあるタイプにさかのぼるが、こうしたタイプは実際には土器であり、技法もスリップと同様であるにも関わらず釉薬という語が使われている。小鉢の機能からすると水漏れ防止という意味合いが強く、少なくとも彩色よりも釉薬という語の方が適当かと考えられるが、誤解を避けるためにスリップという語で統一した。
- 2) 下エジプトのテル・アトリブの発掘報告によると、沐浴施設遺構から出土したヘレニズム時代の土偶は口縁部が内湾する小鉢を片手に沐浴する妊婦の姿を表現しているという。ただし、この土偶については1枚の写真がネット上で公開されているものの (Myśliwiec 2007)、小鉢の様子が隠れているために筆者は確認できていない。

参考文献

- Arav, R. and Freund, R. A. (eds.) 1995 *Beth Saida. vol. 1*. Thomas Jefferson University press, Kirksville, Missouri.
- Arav, R. and Freund, R. A. (eds.) 1999 *Beth Saida. vol. 2*. Thomas Jefferson University press, Kirksville, Missouri.
- Avigad, N. 1993 Samaria (city). In E. Stern (ed.), *The New Encyclopedia of Archaeological Excavations in Holy Land 4*. Israel Exploration Society. Jerusalem, Biblical Archaeology Society, Washington: 1306-1307.
- Avi-Yonah, M. 1993 Maresha. In E. Stern (ed.), *The New Encyclopedia of Archaeological Excavations in the Holy Land 3*. Israel Exploration Society. Jerusalem, Biblical Archaeology Society, Washington: 948-

- 950.
- Berlin, A. 1994 The Plain Wares. In S. C. Herbert (ed.), *Tel Anafa I, i: a Hellenistic & Roman settlement*. Kelsey Museum of the University of Michigan, Ann Arbor, MI: 1-246.
- Clark, A. J. et al. 2002 *Understanding Greek Vases*. The J. Paul Getty Museum. Los Angeles.
- Dever, W. G. et al. 1970, 1974 *Gezer I, II*. Hebrew Union College Biblical and Archaeological School in Jerusalem.
- Fisher, M. 1989 Hellenistic Pottery (Strata V-III). In Z. Herzog, G. Rapp, Jr. and O. Negbi (eds.), *Excavations at Tel Michal, Israel*, Tel Aviv: 177-187. The University of Minnesota Press, Minneapolis and The Sonia and Marco Nadler Institute of Archaeology, Tel Aviv University, Tel Aviv.
- Funk, R. W. 1993 Beth-Zur. In E. Stern (ed.), *The New Encyclopedia of Archaeological Excavations in the Holy Land 1*. Israel Exploration Society. Jerusalem, Biblical Archaeology Society, Washington: 259-261.
- Guz-Zilberstein, B. 1995 The Typology of the Hellenistic Coarse Ware and Selected Loci of the Hellenistic and Roman Periods. In A. Belfer-Cohen, A. Ben-tor and Y. Tsafirir (eds.) *The Excavations at Dor, Final Report Volume 1B. Areas A and C: The Finds*. Qedem Reports, The Institute of Archaeology, The Hebrew University of Jerusalem in cooperation with The Israel exploration Society. Jerusalem: 289-290.
- Gunneweg, J. et al. 1983 *The Provenience, Typology, and Chronology of Eastern Terra Sigillata*. Qedem 17. Jerusalem.
- Hannestad, L. 1983 *The Hellenistic Pottery from Failaka, with a Survey of Hellenistic Pottery in the Near East*. Jutland Archaeological Society Publications. Aarhus.
- Hasegawa, S. forthcoming Stamped Amphora Handles from Tel 'En Gev. In A. Tsukimoto and H. Kuwabara (eds.), *Excavations at Tel 'Ein Gev: Seasons 1990-2004*. Tokyo.
- Herbert, S. C. (ed.) 1994 *Tel Anafa I, i: a Hellenistic & Roman settlement*. Kelsey Museum of the University of Michigan, Ann Arbor.
- Herzog, Z. et al (eds.) 1989 *Excavation at Tel Michal, Israel*. Tel Aviv University.
- Jones, F. F. 1950 The Pottery. In H. Goldman (ed.) *Excavations at Gozlu Kule, Tarsus, I: The Hellenistic and Roman Periods*, Princeton.
- Kloner, A. 2008 Maresha. In E. Stern (ed.), *The New Encyclopedia of Archaeological Excavations in the Holy Land 5*. Supplementary Volume. Israel Exploration Society. Jerusalem, Biblical Archaeology Society, Washington: 1918-1925.
- Lapp, N. L. 2008 *Shechem IV. The Persian-Hellenistic Pottery of Shechem/Tell Balatah*. The American Schools of Oriental Research. Boston.
- Lapp, P. W. 1961 *Palestinian Ceramic Chronology. 200 B.C.-A.D. 70*. American Schools of Oriental Research. New Haven.
- Makino, K. forthcoming Hellenistic pottery from Tel 'En Gev. In A. Tsukimoto and H. Kuwabara (eds.), *Excavations at Tel 'Ein Gev: Seasons 1990-2004*. Tokyo.
- Mazar, B. et al. 1964 'En Gev. Excavations in 1961. *Israel Exploration Journal 14*: 1-49.
- Myśliwiec, K. *Tell Atrib: Layout 1* 2007-09-19 10:55. The University of Arizona: http://www.siwaiwa.pl/cas/book/book70_12.pdf#search='tell+atrib'
- Shumacher, G. 1888 *The Jaulan: Surveyed for the German Society for the Exploration of the Holy Land*. London.
- Singer-Avitz, L. 1989 Local Pottery of the Persian Period (Strata XI-VI). In Z. Herzog et al (eds.) *Excavation at Tel Michal, Israel*. Tel Aviv

- University. Tel Aviv: 115-144.
- Stern, E. 1982 *Material Culture of the Land of the Bible in the Persian Period 538-332 B.C.* Jerusalem: Aris & Phillips, Warminster, Wiltshire, Israel Exploration Society, Jerusalem.
- Stern, E. (ed.) 1995 *Excavation at Dor, Final report. Volume IA. Areas A and C: Introduction and stratigraphy.* The Israel Exploration Society, Jerusalem.
- アテナイオス (柳沼重剛 訳) 1997『食卓の賢人たち』京都大学学術出版会。
- 関根正雄 (編) 村岡崇光 (訳) 1998『旧約聖書外典 上』15-130 講談社文芸文庫。
- フラウィウス・ヨセフス (秦剛平 訳) 2000『ユダヤ古代誌 4』ちくま学芸文庫。
- 牧野久実 2010「エン・ゲヴから出土したヘレニズム時代の土器～(1) 口縁部が内湾する小鉢」『イスラエル考古学研究会ニュースレター No.10』9-12 頁 イスラエル考古学研究会。

牧野 久実
鎌倉女子大学
Kumi MAKINO
Kamakura Women's University